



資料－４

筑後川（上流部）における減災の ための取組目標（案）について

過去の水災害からみた課題

- 平成24年九州北部豪雨では、支川花月川において、2週間のうちに2度も観測史上最高水位を記録する洪水が発生。2箇所で堤防決壊、13箇所から洪水流が越水し、川沿いの観光地として有名な豆田町など日田市街部で大規模な浸水被害が発生。
- 住民が自治体の発信情報（サイレン等）の意味を理解しておらず、避難勧告・指示が発令されても避難しない人が多い。また、荒天下では発信情報（サイレン等）が聞き取れず、それに代わる情報伝達手段も不足。
- 自主防災組織の行動マニュアルが整備されておらず、行政との連携や地域での組織的な避難行動ができなかった。また、高齢化が進み十分な自主防災活動ができていない。
- 住民の災害に対する危機管理意識と防災意識の向上が必要。
- 道路冠水による避難困難者が発生。また、避難場所からの移動（二次避難）が困難。

筑後川上流部 取組目標（案）

■ 5年間で達成すべき目標

昭和28年6月水害から学び、平成24年九州北部豪雨災害等の経験を踏まえ、さらにこれを超える大規模水害に対し、

**「住民の命と観光客の安全を守る水害に強い地域づくり」、
「社会経済被害の最小化」**を目指す。

■ 上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流すハード整備に加え、昭和28年6月水害から学び、平成24年7月九州北部豪雨災害等の経験を踏まえ、以下の取り組みを実施する。

1. 迅速で正確な防災情報の共有による安全な避難行動の取り組みと関係機関との連携による観光客の安全確保の取り組み
2. 住民が自ら避難行動を起こすための水防災意識の醸成（教育・訓練）の取り組み
3. 災害時の被害を最小化するための着実なハード整備と水防災組織活動の充実